



# K.UNO NEWS LETTER

## Vol. 14

ケイ・ウノは全国に店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。  
この広報通信では、毎月1回、ケイ・ウノのジュエリーやオーダーメイドに関する  
さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けします。



### ネパールに明かりを灯すプロジェクトを エネジュエリーで応援します

今回は3月7日にケイウノ銀座本店  
で行われたクラウドファンディングプロ  
ジェクトに関する発表会のレポートを  
お届けします。

発表会には、プロジェクトの中心と  
なる物理学博士/株式会社茨城製作  
所の菊池伯夫氏、プロジェクトの支援

者へのリターン商品を提供される  
Nature and Creation  
の赤池静氏、クラウドファンディング会  
社Readyforキュレーション室  
の廣安ゆきみ氏をお迎えし、それぞれ  
の立場から今回のプロジェクトについ  
ての想いを語っていただきました。

また、ケイ・ウノからはプロジェクトに  
ご支援いただいた方にリターン商品と  
して提供する「エネジュエリー・しず  
く」について、デザイナー浅川浩子から  
説明をさせていただきました。



ネパールで水力発電の指導をする菊池博士

#### 菊池伯夫さん

物理学博士/株式会社茨城製作所  
代表取締役社長

#### 赤池 静さん

Nature and Creation代表

#### 廣安ゆきみさん

READYFOR株式会社  
クラウドファンディング事業部  
キュレーション室 キュレーター

※登壇順

## 厳しいネパールの生活事情

会場となったケイウノ銀座本店2階には、小型水力発電機「Cappa」が置かれています。一見すると発電機とは思えないようなコンパクトなサイズ。スタイリッシュな外観は、2013年グッドデザイン賞を受賞されたというのもうなづけです。

発表会が始まり、主宰される菊池博士から今回のプロジェクトに至る経緯とかける想いをお話いただきました。かねてより、JICA（国際協力機構）に協力してネパールの農村貧困地域に軽水力発電を導入する事業を推進されてきた博士ですが、対象となる地域や人があまりにも多く政府の力だけでは難しいと判断。民間の力が必要と考え、今回初めてクラウドファンディングを立て上げることに。

博士によれば、世界の人口72億のうち、約4分の1がまだ電気がない生活を送っていて、今回支援の対象となるネパールも然り。4分の1の家庭に電気が供給されておらず、電気があるところでも各家庭に明かりが1つだけというところも多く、子どもたちは夜勉強することができないため識字率が低く、大人も内職など夜の仕事ができず生活水準を上げることがままならないという生活が続いているとのこと。電気が使えず冷蔵庫でのワクチンの保存ができないことから、病気で亡くなる方も少なくないのだそうです。



窓ガラスがない小学校



勉強ができるのは太陽光が入る間だけ



Cappaの構造を説明する菊池博士

## 東日本大震災がきっかけで生まれた小型水力発電機



ネパールでCappaを設置する様子

プロジェクトはそんな生活を送るネパールの人々に、小さな水の流れて発電ができる小型の水力発電機を送ろうという主旨で始められました。発電機の名前は「Cappa」。

東日本大震災をきっかけに博士が開発された製品です。震災時、会社と工場がある日立市が震度6強の被害を受け、6日連続の停電と11日間の断水という生活を社員の方と共に余儀なくされた博士。理論物理学を専攻し、複雑流体を研究されるご自身としては、近くにエネルギーとなる川の流れがありながらそれを活かさないことに忸怩たる思いを抱き、小さな流れで発電ができる小型の水力発電機を生み出すに至ったのだそうです。



水の流れて沈めるだけで発電が開始できるため、大型の重機は必要なく山奥やアクセスの悪い場所でも設置することが可能です。博士曰く、持続可能な社会を実現するためにも、これからのエネルギーは従来のダムのように自然を大規模に制御するのではなく、自然に負荷を与えずに知恵と技術で自然の力を引き出すことが必要であると。

小さな水の流れて発電ができるCappaは、それを具現化した製品といえるでしょう。Cappaの本体重量は57kg、大人の女性2人で運べます。発表会終了後、展示されたCappaを実際に持ち上げられた方も…。

## ネパールの暗闇で感じた 小さな明かりの大きな癒やし



試行錯誤を繰り返したデザインスケッチ



エネジュエリーについて説明するケイ・ウノデザイナー浅川

さて、プロジェクトでのケイ・ウノの役割は、「ご支援いただいた方へのリターン商品となる「エネジュエリー・しずく」をご提供すること。同商品はスマートフォン用の電灯用ランプシェードとしてもネットドレスとしても利用いただけます。

開発のきっかけは、ネパールから帰国された博士から「スマートフォン用のライトで使えるランプシェードをつくってほしい」というご要望をいただいたことでした。2015年、2度の大きな地震で燃料が大幅に不足していたネパールにJICAの調査で入った博士は、東日本大震災の時と同様明かりのない夜を経験されました。

電気がつくのは夜10時から朝5時だけ。現地調査からホテルに戻り明かりがつくまで間、真つ暗な闇に一人にいる時の心細さと不安はたとえようがなく、気持ちがあざんと沈んでいったのだそうです。ある時、スマートフォンのライトにペットボトルを置いてみたところ、光が乱反射する様子にとっても癒やされたのだとか。日本、とりわけ東京などの都市では24時間いつも電気がついていいため、明かりの存在を感じにくいのですが、ネパールでの明かりは大きな癒やし。この経験から思いつかれたランプシェード製作のご依頼でした。

## ヒマラヤの大自然をイメージした 「エネジュエリー・しずく」

取り組んだのはケイ・ウノのジュエリーデザイナーの浅川。初めて取り組むランプシェードは形状や大きさ、素材に至るすべてに前例がなく、試行錯誤の繰り返しだったといいます。とりわけ、スマートフォンのライトは想像以上に光量が強いため

ライトの上に乗せると色づけた樹脂の鮮やかなブルーやピンクが飛び、真つ白になるといふ事態に。さまざまな手法を試みた末、底面に白い樹脂を張ることで光りを透過し和らげることに成功。元の彩色を活かすことができました。



水の循環をデザインした「エネジュエリー・しずく」。ヒマラヤの壮大な山々を背景に

こうして、つくり上げた「エネジュエリー・しずく」は、高さ25mm、直径12・6mmの小さなしずく型。カラーはブルーとピンクの2種類で展開。ブルーは、太陽の光がヒマラヤの雪を溶かし、やがて山肌にしみ込んだ雪解け水が集まって川の流れとなり、水蒸気となってまた空に上るといふ水のエネルギーの循環を表現。ピンクはヒマラヤの山々から登る朝日と未来への希望をイメージしています。

なお、「エネジュエリー」なる言葉は、エネルギー×ジュエリーから生み出した造語。エネルギーとジュエリー、一見すると対局にあるとも見える二者ですが、お互いにかつてない新たな試みと価値の創造を生み出すしていくことができる言葉だと考えています。



スマートフォンのライトに乗せた様子。柔らかな光が広がる

## クラウドファンディングの実施は4月27日23:00まで



リターン商品はブルーとピンクの2タイプから選択可能

発表会には、Nature and Creation代表の赤池静さんやREADYFOR株式会社 廣安ゆきみさんにもご登壇。赤池さんは、ネパールの自然素材を手紡ぎ手織りで洋服やストールを製作しておられ、今回のプロジェクトではケイウノと同じくご支援いただいた方へのリターン商品としてカシミヤのストールを提供されます。廣安さんは、クラウドファンディングプロジェクトを運営されるキュレーター。お一人にはそれぞれのビジネスやプロジェクトに対する想いをお話いただきました。

「小さな川でも、水力発電。ネパールの村に明かりを届けたい」クラウドファンディングの募集期間は、3月7日10時〜4月27日23時まで。ご興味のある方、ご支援くださる方はぜひ下記サイトをご覧ください。お待ちしております。

小さな川でも、水力発電。ネパールの村に明かりを届けたい  
<https://readyfor.jp/projects/akari>

## 3月の誕生石 「アクアマリン」

3月の誕生石はアクアマリン。

名前の由来は水を意味する「Aqua」と海を表すラテン語「Marinus」から。

写真左はセンターにアクアマリンをあしらったマリッジリング。

透かし彫りのデザインにアクアマリンの

透き通ったブルーがマッチして

存在感がありながらもクールな仕上がりに。

